

「小石原川ダム建設事業の検証に係る検討 報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時：平成 24 年 9 月 24 日（月）16:00～17:15

場 所：福岡県久留米市 福岡県久留米総合庁舎

発表者：意見発表者

○住民（1 番）

福岡市に在住しております●●と申します。

私は既に昭和 53 年の福岡大渇水のと時から筑後川水問題研究会に所属して、30 数年水問題を勉強しております。色々言っておるんですが、皆様方のお手元に報告書素案の厚いのがあるとすれば、その 4-75、ちょうど真ん中ほどですかね。いわゆる新規利水の観点からの検討について申します。今のご説明にあったように最終的にはそういった資料を全部集約した上で小石原川ダムがいいんだということになっておりますが、その中で新規利水についてはどこが新規利水するかというと福岡県南広域水道企業団の広域水道事業と新たにうきは市が小石原川ダムに水源を求めて加わるということになっております。

で、それがどういうふうな状況で推計されているかということとは色々細かいことはあるんですが、お手元の 4-78 ページをみてください。私達は今日本の人口がこれから急速に減っていくということを目の当たりにして、人口減少時代に社会資本の整備・維持どうするかというのが非常に大きな問題となっています。既に大幅につくられた社会資本、それはさまざまな分野ですが、そういったものに大きな更新の投資、維持の投資それが必要となっているにもかかわらず、新たに非常な水余りの中で更にダムをつくって利水するというのがこの 4-78 ページです。4-78 ページの上のカラーの図を見ていただきますと、平成 21 年までの需要は、ほぼ横這いです。ところがこれから 10 年後、人口が大幅に減るときにその真ん中にあるブルーの書いてあるこれが、例え水道用水を産業用水として使うにしても、あるいは利用率、いわゆる普及率が上がるにしても、普及率が上がるというのは 100 万人いる時の 90%は 90 万人ですが、50 万人に減って 100%になっても利用者は 50 万人なんですよね。そういったことを抜きで普及率が上がるなどというふうな形でこういう推計をしたこと自身が私にはとても理解できません。これがまず第 1 点です。

第 2 点目は、もっぱら県南水道、うきは市は県南に属しますがその需要を小石原川ダムだけに限定して検討しようとしていますが、既に現在持っている水道用水が大余りの状態です。福岡県の水道これがこの資料の原点になっていますが、現在福岡県の水道統計をみますと県全体として平均して 1 番ピークで使うのは水道施設の能力の 6 割です。6 割を最高るとき使うということは 4 割余しているということです。この県南地域においても全くその事情は同じです。そういった現実の事情があるということはどういうことかということ、小石原川ダム以外いっぱいダムがある、そういうところでもうダムが水余りしている。そういったものを適切に相互に利用して使う、これでもう小石原川ダムの利水が全く必要ないということが明らかなかわけです。さまざまなデータで私達は筑後川水問題研究会の会報等で報告しておりますからいちいちもう言いませんが、今、私申し上げましたように、現実の現段階でピークの能力の 6 割しか使われていないのに、これから少々水道水の普及率が高まろうと人口が大幅に減少していく中で水需要が絶対的に拡大するということは私には考えられません。このような計画をお作りになった方々が本当にど

ういう根拠に基づいてこういう推計をされたのかというのは、これまだ完全に行われていないと思いますけれどもこの資料でいいますと6-19ページですか、後ろの方です。学識経験を有するものからの意見の聴取とありまして、学識経験者から話が聞かれるはずですけども、学識経験の方々にもこのところについてきちんと検討して欲しいということを伝えて頂きたいと思えます。以上です。

## ○住民（2番）

5分と言う事でございますので、もう、ちょっといろいろ書いて来ておりますけど中抜きで発表したいと思えます。

私、筑後川土地改良区の●●と申します、宜しくお願いします。

昭和28年の大洪水後の筑後川地域では、河川改修等の実施により大規模な洪水災害は起きておりませんが、本年の7月13日から14日にかけて九州北部豪雨による被害は甚大なものでございました。そのため、家屋や農地への浸水被害が相当な範囲で発生しました。私どもの筑後川中下流域住民の生命、身体、財産を守るためには、頑丈で強い貯留施設のダムの建設が、私は必要不可欠ではないかと思っております。とにかく今、スーパー堤防なんかが中心になっておりますが、洪水対策最大の防御施設は上流ダム建設であると思われる事から、筑後川中下流域におけるスーパー堤防は小石原川ダムであると、私は強く思っております。

次に利水対策について述べさせていただきます。利水対策とは、流水の正常な機能の維持対策が一体的なものだと考えております。筑後川は一週間も雨が降らなければ水無し川になります。水事業に係わっていない人からは「筑後川は、水が多いですね」とよく言われますが、安心して使える水は本当にありません。ダム無くして何処に水を確保するんですか。筑後川流域の下流の方は、金気（かなげ）で安全な水を使えませんので、非常に皆さん苦勞しております。八女市あたりでは水源に上水道の水を求めておられる訳でございます。昭和57年から開始した筑後川国営土地改良事業期間中において、昭和53年、57年、平成6年、平成21年度の異常渇水以外にも、夏季通水期間に近年の小雨傾向により6月中旬の代掻き・田植えが出来ないような時期がございました。私どもはこのダムをどうしても建設して、この筑後川両岸における農業用水の水戦争が起きないように、とにかく考えて頂きたいというふうに思っております。この流水の正常な機能の維持をするためにはダムを造りまして、瀬の下で毎秒40トンを確認するためには、ダム以外にはありません。小石原川ダムによる1,170万トンの水を確保し、そして不特定用水量が私どもでは2,242万トン必要でございます。現在は寺内ダムに70万トン、大山ダムに470万トンの540万トンしかありません。これは必要量の24%、4分の1です。それで小石原川ダムを是非造って頂いて、この1,170万トンの不特定用水を加えて1,710万トンになります。そうすると必要量の約76%の水を確認出来る訳でございます。

小石原川ダム建設を長年希望して来た者として、3年前「新たなダム建設をさせない」と言われた事に対し、損害賠償を要求したい程私は腹が立っております。「新たなダムを建設させない」とダム宣言の結果、今回の北部九州豪雨災害は勿論の事、昨年近畿地方における台風被害も地域に沿ったダムさえあれば、このような被害は出なかったのではないかと思います。「コンクリートから人へ」と明言がありましたが、1億2千万人の生き抜くための水をどうやって貯めろと言う事か理解出来ません。今まで私が申し上げました事について「それ位の事は誰でも分か

っている、偉そうに言うな」と怒られるかも知れませんが、安心して安全な農業用水をこの広大な筑後平野に届ける義務がある土地改良区を運営する一員として、心からの叫びであるとご理解願いたいと存じます。本日はこのような発言をする機会を得ました事について感謝申し上げますと共に皆様のご尽力で是非、小石原川ダム建設を早急に開始して頂きますようお願い致します。ご静聴ありがとうございました。

### ○住民（3番）

久留米市内在住の●●と言います。私は小石原川ダムは無駄なダムだという視点で話しをします。

小石原川ダムの目的の水道用水の部分が12%で、78%は緊急性の無い不特定用水を占めているというダムなんですね。先ほどの方は、ダムができると洪水があたかも無くなるように発言しましたが、これはダムの上流に大雨が降ったときはそれで済むんですね。ところが、ダムの下流に雨が降ったら、ダムは何の役にも立たないと、そのことを無視して発言されています。洪水調節の機能はこのダムは、10%しかもっていないのですね、しかも、ダムが繋がって造られるという新しい方式なわけですけども、それが非常に近接したところに二つダムがあると、そうするとですね、ダムの調節で洪水をストップしていたけれども、満水になったら放水しなければいけないと当たり前なことなんですね。そういう状態が、実際にこの度の集中豪雨でもあってるんですね。ダムの上流にたまたまうまく雨が降ったと、ところが満水になったから放水しなくてはいけないと、マニュアルに沿って放水しますということなんだけど、下流域は洪水になってしまったと。だから、ダムがあれば洪水が防げるというのは幻想であると言うことははっきりしています。

次はこの不特定用水が何なのかというと、環境維持用水と書いてあるんですね。で、結局は下流域の動植物を維持するためなんだという説明になっています。ところが、ダムを建設するために、多数の動植物が抹殺されると。それでどうして環境を維持するんかという話なんですね。

もう一つは、ダムを造るとダムの中に水没する動植物がかなりあります。少なくとも植物は多数水没します。それによって、ガスが発生するわけですね。それで水質が悪化するということは、これまで多数のダムができて、ダム湖の水が悪化したという例は多数あります。水はあるかもしれないけども、良質な水が流れてくるんじゃなくて、水質が悪くない水が流れてくると。その水でも流れないよりはいいのだという発想なんですね。

もう一つ、湖内のところは水温が通常流れている川と大きく違うという部分もあります。ですから、ダムの水を流すときに、上流の、上の方の水をちょろちょろ流す分には影響は小さいけれども、下の方から流した場合には、水温が低い水が流れるわけです。環境維持どころか、環境が悪化すると、下流の魚介類は死ぬということが、当然起きるわけです。こういう視点も含めて、環境維持と言っているけど、環境を悪化させる水になりかねないと、いう側面があるんだということですね。

それとダム建設で水没した樹木・植物は、冠水すると腐敗すると。これは先ほども触れましたけども、そのことによって大量にメタンガスが発生するという問題も含んでいるんですね。そのことによって、ダムは通常は発電するから、温暖化に貢献するんだと言うことになっていますけども、メタンガスを大量に発生すると、温暖化現象がプラスになると、加速されるということ

すね。しかも、これは、このダムは、発電はくっついていないわけですから、温暖化の温暖化問題に貢献はしないということで、川の環境や生態系が維持できるということは、机上の話であって、実際には、そういうことにならないという視点で、このダムが適切なダムというには思われたいということに終わりにします。

#### ○住民（4番）

久留米市在住でございます。私は水道供給、給水を受ける側からの立場として、意見を申し上げたいというふうに思っております。

皆さんご存じのとおりに久留米市は1級河川が市街を横断するような地形的に非常に恵まれたところがございます。上流は田主丸、大きな圃場がありまして農業が盛んな地域でございます。また、下流の方には城島という酒処、全国でも有名な酒処というのがございます。このようなことから久留米市は水で成り立っているんじゃないか、というような町でもあるかというふうに思います。久留米市と言えはすぐに筑紫次郎、筑後川というようなことを想像される方が非常に多いんじゃないかというふうにも思います。

私も子供の頃は筑後川でよく遊びました。魚を釣ったり、あるいは泳いだり、土手で遊んだりというようなことをやりました。昔は、筑後川も本当に水がきれいでした。私たちが小さい頃は本当に飲んでもいいような水が流れていました。特に支流、筑後川の支流の小川の脇というのは小さな石段があって水場に降りて行って、そこで水を汲むとかあるいはそこで食器を洗うとか茶碗を洗うとか、そういうふうな風景がございました。そのような光景があちこちで昔は見られたわけでございます。しかし、現在の筑後川はいかがでしょう、昔とずいぶん変わってきたように思います。これは地球温暖化のせいもあるかも分かりませんが、豪雨あるいは渇水と言うようなことで流況が非常に不安定になってきているんじゃないかというふうなことを感じております。生息する生態系にも影響しているんじゃないかというふうに感じております。私と致しましては、いつまでも変わらないふるさと筑後川として是非残していきたいというふうに考えておるところでございます。

現在、久留米市の生活用水、これはほとんどがもう水道水を利用されているんじゃないかと思いますが、昔の水道はほとんどが井戸水ということで用水を確保しておりました。現在でも産業の中の一部では、地下水を利用されていると言うことを聞いたことがあります。しかし地下水は地盤沈下というようなことも考えられる訳でございます。水質面の問題、これもあるかと思えます。特にヒ素関係については、生活用水として利用するにはどうかということで少し心配する動きもございます。この点水道水はきれいで、浄水場で適切に浄水されております。また、徹底した水質管理のおかげで安心して飲める水ということが全国的にも言われております。

久留米市には筑後川というのがあるので、水が大変多いように感じておられる方もおられるかも知れませんが、久留米市の水道用水として使われるのは、これは一部でございまして、あとは福岡市だとか、佐賀県だとか、そちらにも用水が行っています。このように数々の利権が絡んでおまして、思ったほど自由に使える水が少ないんじゃないかというふうに思うわけでございます。筑後川は今でも2年に1度くらいの頻度で取水制限ですか、こういうのがあります。そのような事を考えますと今回の検証の中で述べられておりますように、ダム以外の水源開発の代替

案として検討され、小石原川ダム案が有利であると取りまとめられておられますが、私もそれに賛同するわけでございます。

小石原川ダム建設は、久留米市の農業あるいは産業、工業において、水の安定を確保致しまして、また私の故郷でもある筑後川の環境を、河川環境を守る事業だというふうにお聞きしております。私としましては流況の安定を図って頂きまして後生の人々が安心した生活を営めることが出来ますように検討報告書の結果を尊重し、ダムの建設を支持したいというふうを考えております。また、出来れば早期に促進して頂ければというふうな事を思っているわけでございます。今日はどうもこの機会を頂きましてありがとうございました。